

今後の練習のご案内

5月8日 (日)	12:00 ~ 15:00
5月22日 (日)	12:00 ~ 15:00

千寿本町小学校 スリッパ持参

参加費:1000円 マスク着用

春のふれあいコンサート

4月10日(日) 開演:12:30

場所:西新井文化センター

集合:12:50 レクホール3(地下)

本番前練習 13:00~13:40

本番集合:14:20~14:35(コンサ

ート休憩時間になります)

この時間の間には舞台下手側の合唱団指定席

に座って待つこと。

本番時間 14:45~14:55

当日の衣装

女声:白ブラウス、黒ロングスカート(黒パ

ンツも可能)、黒靴

男声:白ワイシャツ、団のネクタイ、黒靴、

(上着なし)

※ 白の不織布マスクをして歌います。

(白の不織布なら形は自由です)

楽譜カバー:黒(ファイルでも紙でもOK。)

着替え場所

女声:楽屋舞台裏の通路横の楽屋1、楽屋2、

2階の第3楽屋です。

貴重品は、各自で管理してください。

5月からの練習

5月から新しい曲を練習します。

アルビノーニ作曲「アダージョ」、中島みゆきさんの「時代」です。

音取りCDもあります。団のホームページからyoutubeで音取りを聞くこともできます

(4月10日までは「アメリカンフィーリング」「悪女」が載っています)

あだちフレンズハーモニーの仲間が増えるよう、お友達などに声をかけましょう。

よろしくお祈いします。

陶山先生から

皆さん、お元気ですか？

春になり、4月になりました。

日本は、物事のシステムを4月から変えることが非常に多くて、入学、入社、進級、進学、卒業・・・と、新しい旅立ちや大きな変化が起こることの多い時期です。僕の勤めている大学も任期は一年契約で、必ず「4月1日から3月31日まで」となっています。

ところで今日も「新年」について書いてみます。これもいつも言ってることですが、人間には「新年」が少なくとも毎年3回あって、最初の新年はもちろん1月1日、そしてもう一つの新年は今話している4月1日(新年度)です。1月1日はだれしも新しい気持ちで年を迎えるでしょう。そして、4月1日は、直接は関係なくても、新しい学生服や背広などを見ると、なんだか気分が若返ってきます。

もちろん、そのための別れもあるのですが、それでも旅立ちの別れであることがほとんどで、応援したい気持ちになります。

この二つの新年は、社会全体のことなので、みんなでお祝いすることができます。ニュースなのでも必ず取り上げられますよね。

さてもう一つの「新年」は何かというと、これは全く個人的なもので、社会全体がお祝いムード、というわけにはいきませんがとても大切な日です。それは一人一人の「誕生日」。

誰もが、この誕生日に1歳ずつ年を取っていきます。確かにうれしい反面、ああ、また来てしまったか、とがっかりする気持ちもあります。

僕も3月20日に誕生日を迎え、60歳になりました。やはり、10の位が変わるのは気持ちが変わります。58歳が59歳になった時と、今回のように59歳から60歳になったのでは、重さが全然違います。

思えば、10代が20代になったときはさほど感じませんでした。20代が30代、30代が40代、とその都度、かなりの気持ちの変化があったものです。

今回、50代から60代になって、確かに、人生の後半期に確実にに入った、人生は残り少ない、という気が強くなります。

次男も就職し、6月ごろには自立したい、と言っていますが、そうすると、家に残るのは妻と僕だけ。せつかく2人の子供のために2つの部屋を用意したのに、もう必要ありません。まあ、もともと二人でスタートした結婚生活。元に戻ったと考えると、犬が一匹いるだけにぎやかなものです。

60歳を「還暦」といいますが、調べてみると「還暦」とは、元に戻る、という意味があるようです。

本当に、我が家は30年前に戻った感じで、先ほどの「新年」の話ではありませんが、新しい気分です。今月からスタートしていきたいと思えます。

今後ともよろしくお願いいたします。

田辺先生から

皆さん、いよいよ来週本番ですね。私の専門は声楽です（ご存知ですね）が、たまには伴奏も弾きます。なぜかオルガンを弾くこともあります。鍵盤ハーモニカを弾くこともあります。その度に「声楽が専門なんだけれどなあ〜」と思いつつ、でも伴奏（弾くこと）はとても楽しいのです。大学時代2年間ぐらい、小学校のPTAコーラスの伴奏をやっていて年2回の合唱祭で弾いていたのですが、その時に団員さんに言われたこと「音程が下がると田辺さんが嫌そうな顔をしている」。自分では意識したことなかったのですが、ま、若い頃は素直だったのでしょうか（笑）。今では音程が下がっても顔は変わりませんよ。

その頃の指揮の先生（小学校の音楽の先生）が転校されるまで、PATコーラスだけではなく先生の独唱の伴奏や児童合唱の伴奏をさせていただきました。数年前、足立区合唱祭でその時の先生と懐かしい再会。小学校児童

合唱で指揮をされていました。今はどこの学校にいらしゃるのかなあ・・・。

ところで「アメリカンフィーリング」。曲が爽やかという理由で私がリクエストをしたのですが、歌詞を改めて読むと、（私の解釈ですが）日本とアメリカの遠距離恋愛で、愛する人からの手紙（エアーメール）を握りしめ、アメリカに会いに行く飛行機内。今はインターネットでテレビ電話も世界中いつでも簡単にできますし、メール（電子メール）もすぐ届きます。が、当時は国際電話も高かったですし、エアーメールだって日数もかかる。となれば恋人への想いも強くなり、数時間後にやっと会えるのですから、心も空を飛んでいるような幸せ状態ですね。そういう気持ちで歌えたらよいのでは？？？と思いますが、皆さんいかがでしょうか？

ところが「悪女」は全く逆！フラレテしまった話。「あなたは他の女性と（も）付き合っているけれど、私だって他にも彼氏がいるのさ！」と強がって（本当はいないけど）、彼のことをまだ好きという歌ですね。対照的です（意図的に選曲したのではないですが）。本番がどんな歌になるのか楽しみにしてきました。来週、よろしくお願いいたします。

楽譜のおはなし

音の役割 1

今日は、音階の中の音の役割について説明します。

「ド」

その曲の中心になる音で、多くの曲がその音から始まり、ほとんどすべての曲が「ド」で終わります。ですから、もっとも大切な音、という意味で、「ド」のことを、専門的には「主音」と呼びます。「主人公」という意味です。その国の王様と言ったところでしょうか。この音がなければすべての音楽は存在すらできません。

「シ」

「ド」が、その曲の中心になる主人公でしたが、「シ」はその王様のもっとも忠実な家来です。なぜかと言うと、「ド」の前に来るのは「シ」であることが最も多いからです。「シ」は、「ド」を引き立たすために存在していると言っても過言ではなく、すべてを「ド」のためにささげる忠実な家臣なのです。「シ」は「導音」といいます。「導く音」という意味で、まさに「ド」に導いてくるのは「シ」なのです。

「ソ」

「ド」が王様だとすると、その対抗馬が「ソ」です。ここでは「ド」は王様と言うよりも「主

人公」とすると、「ソ」はそれに対抗する恋敵です。虎視眈々と主役の座を狙っているのです。多くの場合、ちょっと休む場合、「ド」ではなく「ソ」の場合が多い。「ソ」は「ド」以上に安心できる休憩場所かもしれません。専門的には「ソ」のことを「属音」といい、忠実な家来のような名前がついていますが、実はライバルです。が、「ソ」があるから主役の「ド」が生きるのです。

「ファ」

「シ」が主人公の「ド」を導くための存在だとすれば、「ファ」は属音の「ソ」の忠実な家来です。「ファ」は多くの場合、「ソ」の前に来ることが多く、「シ」が「ド」を導く「導音」だとすれば、「ファ」は「ソ」を導くためのもので「属音導音」とも言いたくなるくらいですが、「ソ」（属音）のひとつ下なので「下屬音」と言います。

ホームページ

練習日、「月刊あだフレ」、今後の練習日、音取り音源（youtube）等が載っています。また練習日記には、その日に練習した内容が載っています。復習に是非ご活用ください。

<http://adafre.web.fc2.com/index.html>

月刊あだフレ 第154号 2022. 4. 3.発行

